

新・膠原病教室



著：橋本 博史

B5 頁286 2009年
定価 8,400 円(本体 8,000 円+税 5%)
[ISBN978-4-88002-673-2] 新興医学出版社

「新・膠原病教室」は順天堂大学膠原病内科橋本博史名誉教授の新著である。橋本教授が14年前に上梓した「膠原病教室」の精神を受け継ぎながら全面的に改定し、up-to-dateにしたものである。橋本名誉教授は膠原病の臨床と研究でわが国の誇るべき最も優れた医学者の一人である。特にその臨床の力量はわが国で最も多い症例数を誇る膠原病内科を主宰した経験に基づいて得られたものである。橋本教授は教室における豊富な症例を解析し、素晴らしい臨床研究の成果に結実させ、膠原病に関する多くの専門書、一般書を上梓している。さらに教育者として多くの膠原病・リウマチの専門医を育て世に送り出した。本書はそこで培われたノウハウに基づいて著されたものである。

本書を一読すると、まず橋本教授の臨床医・教育者としての力量が本書の組み立てで明らかになる。286ページのうちの三分の一を割いて膠原病の基礎について記述されている。膠原病の歴史から始まって、その位置付け、病態形成機序、膠原病にみられる臨床像や検査所見、そして治療に当てられている。医学生教育ではこれほど詳細には教えていないので、学生に膠原病への関心をもたせる参考書としてとくに有用な部分である。治療薬については、最新の生物学的製剤を含めて作用機序から副作用までまとめて記されており、診

療の現場で極めて有用である。

次の三分の一強の100ページに膠原病に属する疾患とその周辺疾患について記述されている。関節リウマチから始まりSLE、全身性硬化症と続き、疾患ごとに概念、病因、病理から治療までが網羅されている。病理所見、臨床症状では自験例に基づく豊富な写真が本文中だけでなく、巻頭にカラーページとして各章ごとにまとめて載っている。膠原病を理解する上では臨床所見・病理所見を実際に見ることが大切であるが、色鮮やかなカラー写真を見て理解できるように工夫されている。写真がやや小さめなのは残念であるが、さらに、膠原病に類似した疾患としてBehçet病、血清反応陰性脊椎関節症など多くの疾患が取り上げられている。

最後の三分の一弱の部分では、まず感染症など膠原病にみられる合併症について詳細な記述がある。日常生活指導の項では公費負担を含め記載されており、診療にすぐ役立てることができる。そして最後の部分には本文中で簡単に触れられた図表がまとめて掲げられている。例えば主なCD分子やサイトカインなどの膠原病の理解に重要な基礎的事象が表にまとめられている。一方、PNなど多くの疾患の診断基準の表、プシラミンなどの薬剤の副作用の表、など合計で75の図表が掲げられている。

本書の特徴は非常に多くの図表と写真(カラー写真)を用いて、わかりやすく記述されていることである。学生、研修医が表題どおり、教室で橋本教授の講義を受けているように構成されている。さらに、ヒトアジュバント病やWeber-Christian病のような稀少疾患についても臨床所見と病理所見の写真が載っており、専門医にとっても役立つ本である。「新・膠原病教室」の表題がぴったりの良書である。